

伝えたい
私の3.11
浦安震災

でこぼこ道と水や電気が使えない生活。 でも、助け合い支えあう力が街中にあふれていました。

一時避難、上下水道の使えない生活、でこぼこの道路、土ぼこりなど、「3.11」を境に私たちの暮らしは一変しました。しかし被災の日々の中、浦安のまちにはお互いを気づかい、助け合い、支えあうという「互助(ごじょ)」の力に満ちていました。市民の皆さんから寄せられた、震災にまつわるさまざまな体験談やエピソードをご紹介します。

2~5ページは市民の皆さんから寄せられた投稿を元に作成したページです。次のブログでもっとたくさんの体験談をご覧ください。

「伝えようあなたの『3.11浦安震災』」
<http://urayasu311.blog.fc2.com>



その声、その一言がうれしい—離れていてもつながっている

下処理済みの野菜が長崎から—入船 Kさん—

断水中のある日、ペットボトルの水や下処理済の新鮮なお野菜、レトルト食品が大量に届きました。送り主は、家族で遊びに来ていて地震に遭遇したものの、何とかその日に無事に帰れた長崎の友人。私たちが家族を気にかけて送ってくれたものでした。

手に入りにくいものばかりで非常に助かったのですが、水が出ない事を知って野菜を下茹でして送ってくれた気配りにも感動しました。



美浜北に開設された避難所

土砂とメールとバってしまった秘密—今川 Hさん—

液状化したにつつき土砂のかき出しに精も根も尽き果てそうになった時、「元気を出して！」と遠方に避難したママ友からのメールが着信。

「お血とか全部平気だったのに、旦那に内緒にしてた秘密の引き出しの中身が全部飛び出したの。その中に隠してあったお酒やら高級なお菓子やおつまみがみんな旦那にばれちゃったわあ〜。こんなことならさっさと呑んで食べてりゃよかった。きい〜！」という、自虐エピソードの応援メールに、大笑いして疲れも吹っ飛びました。

目に見えない幸せが見えた—今川 Sさん—

地震の後、自宅の破裂した水道管の水を開放してくれたご近所さん。無料で入浴させてくれた千葉市内の銭湯のおばちゃん。次の日に何も言わず必要な品を送ってくれた義姉(普段疎遠なのに...)。目に見えない幸せってこんなことを言うんだなあとしみじみました。



日の出地区

心もつながった「ママ友ネットワーク」—入船 Yさん—

子どもの習い事で知り合ったママから震災の翌朝早くにメールが、「みんな無事ですか？ 私の知っている情報を送ります。何か情報があれば送信してください。お友だちにも教えてあげてみんなで共有しましょう」との事。

こうして生まれた「ママ友ネットワーク」。どこにお風呂屋さんがあるか、待ち時間が短いコインランドリー、停電情報など様々な情報をいただきました。情報共有で助かったことはもちろんですが、「誰かとつながっている」という安心感は大変心強いものでした。

地震で気づいた人のやさしさ—困った時はおたがいさま

ウルルン帰宅難民—北栄 Sさん—

東京駅近くのオフィスで地震に遭遇。浦安まで3時間半かけて徒歩で帰ってきました。途中の道沿いの喫茶店や商店には「トイレ自由にお使いください」の張り紙があり、また強風吹き荒れる荒川を渡ったところでは「寒くないですか。カイロ使ってください！」とカイロを配っている男性がいました。もらったカイロで手が温まりましたが、それ以上に心が温くなりました。



震災後の室内

新浦安駅前

ガスではなく水をどうぞ—今川 Kさん—

こんなに大きな被害だとは思わず、地震直後に「給湯器を使うようにしてほしい」とガス会社に電話。やって来た二人の作業員は、土砂に埋まり傾いた給湯器を真っ直ぐに立ち上げ、配管を点検し、申し訳なさそうに「今は、これしか出来ることはありません」と言って帰られました。

2~3時間後、先ほどの作業員さんが大きなビニール袋を抱えて戻ってきました。「何も出来ることがないので、水道が使える元町から汲んで来ました」。大きなビニール袋の中には水が。思いもかけない親切は、その後の大きな支えとなりました。

優しいロックンローラー—入船 Tさん—

自宅周辺の土砂作業中、ロックな(身なりの)お兄さんが自転車で通り過ぎました。「ちっ、見物人かぁ」とちょっとイラついた私。しばらくすると、彼がためらいながら戻ってきました。「この辺は埃がすごいからこれ使ってください」と差し出したのは新しいマスク。マスクをしていない私を見てわざわざ戻ってきてくれたお兄さん「ありがとう。そして...ごめんなさい！」

地震なんかには負けないよ—子どもたちに教えられた

汚したらきれいに—高瀬 Kさん—

地震直後、大勢の人たちが小学校の体育館に避難してきました。液状化の土砂のために体育館の中は泥だらけになってしまいました。すると、誰から言うともなく6年生たちが床掃除を始めました。それを見て、大人たちもあわてて掃除を始めました。



明海小学校児童教育クラブ

大切なものは自分で守る—入船 Hさん—

子どもと一緒に避難しようとした時のこと。子どもが号泣しながら「ちょっと待って！」と、大事にしているぬいぐるみを全部和室に出し、その上に座布団や布団、枕を必死でかぶせていきました。強い余震が続く中、「壁や天井が壊れても大丈夫なように」と、一生懸命大事な物を守っていました。

6年生だからしつかりしなきや—H先生—

地震が起こったのはちょうど下校の時間。受け持っていた1年生はもう下校していたので、見回りに行きました。すると兄弟学級の6年生の姿が。みんな「怖い、怖い」とおびえ、中には泣いている児童もいました。でもしばらくたって落ち着きを取り戻すと、「先生、1年生はみんな大丈夫ですか？」と聞いてくれました。

自分自身も不安なのに、兄弟学級のことを心配してくれる6年生の姿に、頼もしさと優しさを感じました。

Column.1

東北地方太平洋沖地震と浦安市の被害状況

浦安市では全市の9割近くで液状化被害が発生。その被害額は約734億円と推計されている。

東北地方太平洋沖地震	発生日	2011(平成23)年3月11日(金)
	発生日時刻	14時46分18秒
	震源地	三陸沖(牡鹿半島の東南東約130km)
	地震の規模	マグニチュード9.0
浦安市の被害状況	最大震度	震度7(宮城県栗原市)
	揺れの時間	約130秒(首都圏、本震時)
	最大震度	震度5強
	負傷者	6名(重傷)21名(軽傷)
	建物全壊	10棟
	建物半壊	3,603棟
	建物一部破損	4,848棟
	液状化面積	約14.55km ² (全市面積16.98km ² の85.7%)
噴出した土砂	約73,000トン	
道路の被害	被害延長約111.8km	
断水	最大約37,000世帯(全世帯数の約72.5%の51%)	
被害額	約734億円(激甚災害指定時)	

(地震計資料、千葉県資料、調査資料等より作成)